

花岡区小田井、船魂神社の「しだれ桜」は
命と再生のシンボル
幹に深い傷を残しながらも
人々に勇気を与えるように
毎年美しい花を咲かす

◎特集1

いのち、きずな、暮らし。
大切なものを守るために、
今できることは？

東日本大震災の被災地では、壊滅的な被害、放射能汚染の不安、電力不足、物資不足など、つらく厳しい状況が続くなか、懸命な復旧作業が進められています。困難に立ち向かう人々に、1日も早く笑顔が戻るよう支援の心を向けるのはもちろんのこと、わたしたちもまた防災に努め、いざというときの被害を最小限に食い止めるため、しっかりと準備をしておかなくてはならないと感じます。

平成18年7月の豪雨災害から5年が経とうとしています。災害現場は見違えるように整備され、防災資機材なども充実。ほっと胸をなで下ろすこのころですが、大切なのは心の備えです。入梅を前に、また今般の震災を教訓とし、家族で、地域で、安全・安心の暮らしを守るための再確認を行いましょ。



完成した流路工
(小田井沢川)



災害当時の小田井沢川



完成した砂防堰堤

砂防堰堤の役割

上流から流れ下ってくる土砂を受け止め、下流への被害を防ぎます。

土砂が貯まると川の勾配が緩くなるため、急流は穏やかな流れに変わり、土砂の流出が抑えられ、同時に川底も削られるにくくなります。

砂防堰堤

整備した溪流および堰堤の数
溪流数：12 溪流 堰堤数：27基

平成18年7月の豪雨災害以来、市は「安全・安心 活力あるまちづくり」をめざして、市民生活の復旧・復興にあたり、併せて砂防堰堤や山腹工の建設、沢や河川、道路の改修などに取り組んできました。3月(平成22年度末)に、災害復旧工事が終了したことを受け、ここであらためて、おもな整備内容を紹介します。

災害当時の栃久保沢



完成した山腹工



山腹工の役割

崩壊した山肌を安定させるため、斜面に擁壁や水路工を設置し、さらに植栽を行い、斜面を森林に戻して土砂が流れ出すのを防ぎます。

山腹工

整備した山腹工の数 17か所

防災行政無線による試験放送について

5月31日(火)の午前10時15分ごろ、全国瞬時警報システム(J-ALERT)の試験放送「緊急地震速報」を防災行政無線から放送します。試験放送ですので、実際の災害と間違えないようにしてください。(防災ラジオも同様です)

みんなで防ごう土砂災害

今年是小坂区で

土砂災害訓練を実施します

大雨による土砂災害を想定した、情報伝達訓練および避難訓練を実施します。
日時：6月5日(日)午前8時30分から
訓練対象地区：小坂区
(主会場：小坂公民館)

訓練参加機関：小坂区、岡谷警察署、諏訪広域消防岡谷消防署、岡谷市消防団(第7分団)

※訓練当日、防災行政無線の放送があります(防災ラジオも同様)。訓練でするので、災害と間違えないようにしてください。

問合せ ● 危機管理室(内線1591)

復興のいぶき…たくましく―豪雨災害をふり返って―

被災地区の最前線で復旧に努めたお2人に、お話をうかがいました。

花岡区長 小口 瀧明さん

会議を終えて家へ帰っても降り続く雨が気になり、夜中の3時に雨ガッパを着て軽トラに乗り込んだ災害当日…。ずぶぬれの泥まみれで湊小につき、安否確認の指示を出すまで、時間の経過の抜け落ちた長い1日でした。

わたしは被害状況の把握と復旧対策のため、区民センターに寝泊まりしていました。犠牲者のなかには「広葉樹を増やすために1世帯1鉢運動をしてはどうか。家にドングリの苗木が5鉢あるから、これを区民に広げよう」と話していた花岡泰男さんの名前もありました。

避難所では、避難住民がそれぞれの役割を担い、また被災しなかった住民が、自主的に炊き出しを始めるなどの活動が始まりました。助け合いを呼びかけて、地区内ボランティアを募集したところ、中学生から80代まで150人ほどが集まり、一時帰宅の際の土砂の撤去などを手伝ってくれました。区民の一体感を実感した、それはうれしきことでした。

また、県内外から手弁当で集まってくださったボランティアのみなさんからも、大きな勇気ももらいました。炎天下で黙々と働きながら、住民に励ましの言葉までかけてくれたみなさんに、お礼がいたいという思いは今も変わりません。

当時は、誰もが不平不満を抱えるつらい状

態でしたが、それをこらえ譲歩し合うなかで、住民の意識も変わってきました。住民との一体感を大切に、また行政との連帯のもと、ここで工事も無事終了し、現在は感謝の気持ちでいっぱいです。

災害に強い森林づくりでは「やっちゃんのだんぐり」をはじめ、たくさんの新しい苗木が、子どもたちや住民によって植樹されました。しか



整備された北小路地区の小田井沢川流路と道路。「住民の理解が得られたときは本当にうれしかった」と小口区長



見る見る片付いていく、ボランティアの力を実感

し、二度と同じ災害に遭わないためには、これからが大切なのです。地域のことは地域で考え、行動していかなくてはなりません。犬を散歩しながら、またジョギングをしながらでも「あれ？」と思うたら、すぐに連絡する、そうした敏感さをみんなが持つて生活すれば、減災だけでなく犯罪抑止にもつながると思います。大切なのは、心の備えです。

橋原区災害対策委員会 委員長

林 實英さん

外は一面泥の山でした。道路も線路も田畑も全滅、何がどうなっているのかわからないなか、ともかく避難をしました。定年後の農業従事者で自由に動けたこともあり、区の事情に明るい自分ができることをしなければという思いでした。避難勧告が出ている間は、区民が主体となつて応急処置的な工事を実施しました。その後、市が実施した本格的な復旧工事にあたり、区の委託を受けて、総監督兼渉外係みたいな立場で、まずはライフラインの復旧にあたりました。

災害対策委員会を立ち上げたのは、少し落ちついてきた10月のことです。橋原は、もともとまとまりのある区なので、諸先輩も若い人もほとんどん役を引き受け、よく協力してくれました。何から手をつけていいのかわからない非常事態では、行政が混乱し住民が感情的になるなか、おしかりを受けることもありましたが、ほめられなくてもいい、自分が矢面に立ち関係性をスムーズにして、前進することが長

「今でも雨が激しく降ると気になるけれど、立派な堰堤と水流の勢いを抑制する設計の志平沢流路を見ると安心できます」と林さん



左の記念碑の碑文は、地区の女子小学生3人が書いたもの



たる者の役目と覚悟を持ってやっていました。
道路の再開、取り付け道路と志平沢の新たな流路確保などを行うなか、買い上げなどが絡む地権者との折衝は、慎重かつ敏速に行わなければならぬという問題でした。しこりを残さぬように、何度でも納得してもらえらまで話し合いに出向き、委員会主導で全体から持ち分を振り分けるなどしたことで、結果的に早く対処ができ、期限内にすべて完工し、わたし自身、いくらかは区に奉仕できたのではないかと自負しています。また、天竜川の護岸改修も同時進行で行うことができ、長年の住民の不安も解消され、区内に歩道付道路が整備されたことも、大変喜ばしく思っています。

情報の伝達・収集

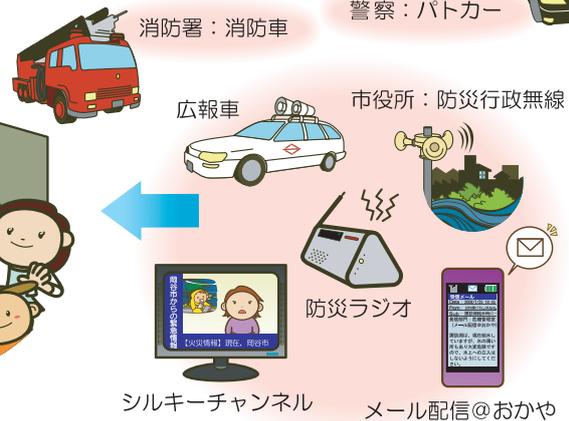
◎防災情報関係



市民



◎避難情報関係



防災の心得

非常持出品・備蓄品

食料関係

- 非常食（乾パン・缶詰・レトルト食品・粉ミルク）
- 飲料水

緊急医薬品

- 救急用品
- 三角巾
- ガーゼ
- 消毒液
- ばんそうこう
- きず薬

道具類

- 缶切り（ナイフ）
- 岡谷市防災ラジオ
- コーブ
- コーソク
- 懐中電灯
- 予備の電池



貴重品

- 現金（小銭も）
- 印鑑・預金通帳（コピー可）
- 保険証（コピー可）

衣類

- 下着
- 靴下
- 毛布
- タオル

安全対策品

- ヘルメット（防災ずきん）
- 携帯レインコート
- 軍手

阪神・淡路大震災ではこんなものが役立った！

10円玉、ドライシャンプー、石けん類、ホイッスル、携帯コンロ、パール、ブルーシート、常備薬、予備のメガネ・補聴器、自転車など